

# 2021年度「ウクライナ4大学交流協定 記念特集」に寄せて

本特集は2021年度に結ばれたウクライナの4大学との協定を記念して、学術協力の第一歩として企画された。神戸学院大学経済学会には、2014年度、2016年度、2017年度、2018年度に研究助成を受けた。ウクライナ研究への継続的な援助に対して関係各位に心より感謝申し上げます。

2021年、神戸学院大学は、経済学部を担当として、5月に西ウクライナ国立大学（テルノーピリ州）、オストロフアカデミー国立大学（リヴネ州）、9月にプレカルパチア国立大学（イヴァノ＝フランキウシク州）、10月にリヴィウ工科大学（リヴィウ州）と4つの大学と交流協定を結んだ。いずれも西ウクライナのトップクラスの教育・研究機関である。また、将来的には神戸市と協力して、ウクライナより高度人材を招聘するプロジェクトも、本学国際交流センターを中心に現在、構想を進めている。

本特集に収録されたウクライナ側の論文は、ウクライナの経済に関する論文が中心である。執筆者には、西ウクライナ国立大学のアンドリー・クリソヴァティ学長やプレカルパチア国立大学のヴァレンティーナ・ヤクビブ副学長も含まれ、金融、投資環境、バイオエネルギー、大学における経済学教育、地方分権などその分野は多岐に渡る。現在のウクライナの社会経済を知る上で、重要な論考ばかりである。また、筆者が、日本人とウクライナ人の人的交流史についての小論を執筆した。2020年11月に設立された神戸学院大学出版会から拙著『日本ウクライナ交流史1915-1937年』が刊行され、来年4月には続編が出版される予定で、その最終章として所収される予定である。

コロナ禍の第5波もようやく落ち着いたが、地球規模の学術交流の先行きはまだまだ不透明である。このような状況下ではあるが、日ウ関係がますます深

化することを期待している。今後も変わらず、日本におけるさらなるウクライナ研究の進展に微力ながら尽力する所存である。神戸学院大学経済学部には、変わらぬ支援をお願いしたい。

特集代表者

神戸学院大学経済学部教授，国際交流センター所長

ウクライナ研究会会長

岡 部 芳 彦